スポーツ・健康福祉研究部門
HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」活動報告

他県へも「HBG 発」の活動広がる！

高知県立障害者スポーツセンターで

アダプテッド・スポーツ教室開催

HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」代表　加地信幸
（人間健康学部スポーツ健康福祉学科）

平成 30 年 11 月 10 日（土）に、高知県立障害者スポーツセンターで、HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」こうち（以下、「HBG はなまるキッズこうち」）を開催した。

昨年は、高知県理学療法士協会主催で、HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」の取り組みについて講習会を開催し、今年度は「HBG はなまるキッズこうち」を立ち上げ、教室を開催することができた。開催に当たっては、高知県在住でボランティア支援者の一人である廣戸優尊氏（理学療法士）が中心になって計画し、協賛に高知よさこいライオンズクラブ、ながさき亭、協力が広島文化学園大学・私立大学研究ブランディング事業・スポーツ・健康福祉研究部門、後援が（株）TECHNO CRAFT KOCHI により実施された。

「HBG はなまるキッズこうち」に広島と高知から参加したボランティア支援者、及び職種は、表 1 に示す通り。医療・福祉関係職、特別支援学校教諭など、広島で日頃からボランティア支援者として協力を得ている方が代表者を含め 8 名、高知県内在住の方 9 名が参加した。

表 1　広島と高知から参加したボランティア支援者、及び職種

	ボランティア支援者（広島）	ボランティア支援者（高知）
職種（人数）	保育士（2 名）	理学療法士（2 名）
	社会福祉士（1 名）	介護福祉士（2 名）
	福祉施設指導員（1 名）	リハビリテーション助手（1 名）
	特別支援学校（肢体不自由）教諭（2 名）	特別支援学校（視覚障害）教諭（2 名）
	絵画プロアーティスト（1 名）	学生（作業療法専攻）（1 名）
	大学教員（1 名）	参加者の兄弟
合計	8 名	9名
	17 名	

「HBG はなまるキッズこうち」に参加した子供は 5 名で、年齢が 4 歳から 16 歳。障害の状態は、身体、および知的にも最重度の障害のある子供、吸引や注入などの医療的なケアが必要な子供、介助歩行が可能で視覚障害と肢体不自由を併せ有する子供等であった。活動当初、子供達の中には、慣れない人や環境の為に、緊張した表情を見せたり、泣いてしまったりする等の様子が見られたが、徐々に慣れてくると、笑顔や笑い声等と共に、楽しそうに活動する場面が見られた。

実際の活動では、1名の子供に対して広島から参加したベテランのボランティア支援者と高知から参加した支援者がチームを組んで実施した。活動を通じてボランティア支援者同士で、子供を抱きかかえる方法、言葉かけ、身体面の安全管理、スポーツ用具の効果的な使用法などについて、子供達とのやりとりを通じて対人援助技術について学びを深めた。活動中には、ボランティア支援者や子供達からの笑い声や真剣な表情がみられ、楽しい雰囲気で活動が実施された。

活動後に実施した参加したボランティア支援者、及び参加した子供の保護者への聞き取りやSNS で寄せられた感想を表2、表3に示す。ボランティア支援者からは、「すごく楽しかった。」「子供達の笑顔を見ることができるのが楽しい。」などが寄せられた。参加した子供の保護者からは、「障害児や親が楽しめる場がなかなかないので本当に皆が喜んでいる。」「年に一回でも定期的に実施してほしい。」などが寄せられた。

表2　参加したボランティア支援者の感想

すごく楽しかった。
支援者と子供達の笑顔をたくさん見ることができたのが楽しかった。
感動や発見があり、とても充実感たっぷりの時間を過ごさせていただけた。
子供達、保護者、支援者の皆さんが最後は笑顔で終わることができてよかった。
広島でも高知でも、活動を満喫できた、ありがとうございました。
支援してみて、子供の始めの表情や身体の動きと、終わる頃の表情や身体の動き、過程での変化、それぞれ感じるものがあり、良くなっていく変化を感じた。やっていて嬉しかったです。
こういった活動を通して、社会の中に参加できる場があること、そのことに理解を広げていること、素晴らしいと思います。できることをしていきたいです。
A 君の泣いた顔、笑いを我慢する顔、大きな目、笑った顔。たくさんの表情を見ることができたし、皆さんに楽しんでいただけて良かったです。
M くんが、トランポリンを楽しめてよかったです。自分ひとりの力で揺らせるのが楽しそうでした。
こういった機会はなかなかないので貴重だと思った。
実施前・後で子供の姿勢や表情等が変わっていてすごいと思った。参加してよかった。
定期的に実施できたらうれしいです。
スクーターボード運動時に、思った以上にスピードを出して支援したが、障害の重い子供でも大丈夫で、楽しむことができていました。
ベンチ椅子に座ったスロー・ラジオ体操では、片手ずつゆっくり動かして、子供の身体が緩んでいったので良かったです。
いろいろと学ぶことがありました。ありがとうございました。
今後、定期的に高知で開催できるよう体制を整えていきたいと思います。
常に技術が進歩しており勉強になった。定期的に教えていただきたい。

表3　参加した子供の保護者の感想

障害児や親が楽しめる場がなかなかないので本当に皆が喜んでいる。
年に一回でも定期的に実施してほしい。
支援者の皆様、本当に楽しい時間をありがとうございました。
沢山の盛り上がりに感謝しています。

（参加した子供の）弟が、最初から片付けまで楽しんでいました。
後半は緊張もほぐれて普段の本人が出せて楽しんでいました。
大きなトランポリンや、（台車に）引っ張られて乗るという体験は、今までなかった。今までやったことのない遊びが体験できたと思います。ありがとうございました。
（子供が）楽しかったようで、トランポリンが欲しいと、ずっと言っています。少し自信もついたようです。

HBG はなまるキッズに参加する子どもの殆どの子供は、日頃は車椅子で同じ姿勢を続けていたり、ベッドやフロアーで寝たきりで過ごしたりしていることが多く、音声言語でのやりとりや主体的な手足の動きにも様々な課題を有している。このような子供達への運動支援は、より高度な専門的知識と経験が必要となる。今後も、地域のニーズに応じて各地で暮らす重度・重複障害児を対象としたアダプテッド・スポーツ活動を実践し、ボランティア支援者や学生達と共に対人援助技術を高める活動を継続していきたい。